

症例検討会の具体的な準備について

2020年の「肺がん検診の手引き」改訂部分の「読影医の条件」および「精度管理」の項目に追加された「症例検討会」に関しての、具体的な準備と必要な備品等についてまとめたので参考にさせていただきたい。

<開催時期>

検診の実施時期が11月末頃までの場合は、翌年の3月の実施は可能ではあるが、症例の診断結果を入手するのが困難であり、翌年度の初夏ぐらいが妥当。

<会場設営>

- 読影医がすべて入室できる会場が必要。
- シャウカステンやモニターを使う場合は、その前に集まって読影する場合があります、人が集まれるスペースの確保が必要。
- 読影時は読影に支障を催さないよう、照明を落とし暗幕が必要。

<必要備品>

- フィルム読影の場合はシャウカステンが必要。
- モニター読影の場合は、医療用読影システムが望ましい。

注) 単純X線撮影での特に早期肺がんを疑う微細な陰影の評価には、ノートPCのような輝度の低いモニターでは不十分である。医療用画像のフォーマットであるDICOM14に準拠した高輝度高精細モニターの使用が望ましく、対応するビデオカードが搭載されている医療用読影システム(PC)が、接続の点からも望ましい。

医療用読影システムや高輝度高精細モニターが使えない場合は以下の方法を考慮すること

1) プロジェクターでのスクリーンへの投影

ノートPC等を使って、画像をプロジェクターでスクリーンに投影することは可能である。ただし家庭用プロジェクターは輝度の点で医療用画像の投影には適しておらず、DICOM SIM mode対応の商用プロジェクターが必要である。(商用プロジェクターはレンタル可能である)

2) 汎用PCと高輝度高精細モニターへの接続

症例検討会のような参照レベルであれば、高輝度高精細モニター側の補正機能を活用して、ノートPCなどの汎用PCを使用しても差し支えない。PCとモニターの接続には一般的なDisplayPortケーブルやHDMIケーブル等が必要である。

3) 汎用PCと汎用カラーモニターへの接続(有料ソフトの活用)

汎用PCと動画閲覧用のカラーモニターを接続し、有料のソフトを活用すればDICOM準拠画

像の表示は可能である。ソフトメーカーのHPでは、あくまで参照用としての利用として制限が設けられている。

<参加人数と必要備品>

- 参加人数が30人程度であれば、シャウカステンやモニターの前に集合し、同じ画像を見ながら検討が可能である。
- 一度にシャウカステンやモニターの前での画像閲覧が困難な場合は、検討会開始前に閲覧時間を設けて、全症例を事前に関覧しておく方がよい。
- 都道府県や区単位で症例検討会を行う場合、人数が100人規模になる場合は、プロジェクターでの投影とならざるを得ない。プロジェクターでの投影の場合には、前述したように、家庭用プロジェクターは輝度が足りないため適しておらず、DICOM SIM mode対応の商用プロジェクターが必要である。(レンタル可能)

症例のリストアップ:

- 発見がんが10例程度あれば、発見がんの十分な検討だけでよい。
- 発見がんが少ない場合は、判定Eを20例程度抽出する。判定Eが20例に満たない場合は判定E全例を検討する。
- 判定E自体が4-5例にとどまる場合は、判定Dについても検討する。
- 検診規模が非常に小さく、判定D, E例がほとんどない、あるいは精密検査結果の臨床情報が入手できないなどの理由で症例の確保が困難な場合は、日本肺癌学会の「肺がん検診のための胸部X線画像・自己演習システム」を用いて検討することも可能である。
- 検診規模が非常に小さく、判定D, E例がほとんどない、あるいはコメンテーターの確保が困難な場合は、他施設や都道府県単位、あるいは日本肺癌学会等が主催する胸部画像の読影に関するセミナー・講習会の受講で代行することを検討する。

提示症例の臨床情報

- 提示症例のリスト作成
- 検診実施機関あるいは各医療機関への臨床情報および精査CT画像収集の依頼

司会者/コメンテーターの決定

- 呼吸器あるいは放射線診断の専門家がよい。検診実施機関あるいは郡市区医師会に専門家がいなければ精密検査医療機関の専門家に依頼する。

<当日の進め方>

- 症例の検診画像を、年代・男女別・喫煙歴・二人の読影医のABCDE判定とともに提示する。その際、できるだけ過去の検診画像も併せて提示する。

- 司会者あるいはコメンテーターは会場の意見も随時取り入れながら、画像の検討を行い、最終的に精密検査結果についてCT画像とともに提示する。手術所見や病理所見が判明していれば、それも提示する。
- すべての症例について検討を行う。

<当日参加できなかった読影医への対応>

- 他施設で実施する症例検討会、あるいは都道府県単位や日本肺癌学会をはじめとする学会・研究会などが主催する胸部画像の読影に関するセミナーや講習会の受講で代行できる。
- 前年の読影困難例や診断困難例を拾い上げた DVD などを作成し各読影医に閲覧させることは有用だが、「症例検討会への参加」の代行とするためには、単に「DVD を配布する」ことのみではなく、「確かに視聴した」ことを確認できる必要がある。
- 今後、WEB 下で適切な精度での研修が行われ、その受講を確認できる仕組みが構築された際には、それらも「症例検討会の代行」とされる可能性がある。
- なお、新型コロナウイルス感染症拡大への緊急対応として WEB 下の開催を行わなければならない場合などは、特殊な状況であることを鑑み、緊急避難的に、最も適切な条件が得られない状態での WEB 下の開催も認めるが、可及的に良好な条件を揃えるべきである。